

韓国語の数詞に関する覚書

飯田秀敏・崔昇浩

1. はじめに

数は合理的で明確な概念である。しかし、数の概念の言語的表現には不合理で不規則的な面が多々存在する。外国語としての韓国語教育においても、数表現、つまり数詞の用法には、初歩の段階から様々な不合理性が顔を覗かせる。初歩レベルの教材では、数詞に関する記述は規範的、規則的な記述にとどめられるのが普通である。しかし、この段階でまとまった記述が与えられて以後、数詞の複雑多岐にわたる諸相については必要に応じて断片的に与えられているに過ぎない。しかも、その多くは辞書の記述によるところが大きい。学習の段階が進むに連れて実際の言語資料に接するようになると、学習者は数詞に関しても様々な疑問を抱くようになる。そのような疑問に答え、学習の能率と授業の効率を高めるために、数詞の全体像を把握しておく必要がある。本稿はそのような目的で書かれるものである。ただし、稿者たちがかねてから拾ってきた事実を纏め上げただけであり、覚書の域を出るものではない。

2. 韓国語の数詞の分類

数詞には数を表す基数詞と順序を表す序数詞とがある。韓国語では、その各々に漢語に由来する漢数詞と韓国・朝鮮語本来の固有数詞とがある。漢数詞と固有数詞の2系統の数詞を持つこと、漢数詞が次第に勢力を広げつつあることは日本語の場合と同様であるが、韓国語の固有数詞は日本語のそれに比べるとまだまだ勢いを保っており、特に小さい数に関しては頻繁に使われている。

1から10までの数について基数詞と序数詞を示しておく。

	基数詞		序数詞		
	漢数詞	固有数詞	漢数詞	固有数詞 A	固有数詞 B
1	일【一】	하나	제일【第一】	첫째	첫번째
2	이【二】	둘	제이【第二】	둘째	두번째
3	삼【三】	셋	제삼【第三】	셋째	세번째
4	사【四】	넷	제사【第四】	넷째	네번째
5	오【五】	다섯	제오【第五】	다섯째	다섯번째
6	육【六】	여섯	제육【第六】	여섯째	여섯번째
7	칠【七】	일곱	제칠【第七】	일곱째	일곱번째

	基数詞		序数詞		
	漢数詞	固有数詞	漢数詞	固有数詞A	固有数詞B
8	팔【八】	여덟	제팔【第八】	여덟째	여덟번째
9	구【九】	아홉	제구【第九】	아홉째	아홉번째
10	십【十】	열	제십【第十】	열째	열번째
11	십일【十一】	열 하나	제십일【第十一】	열한째	열한번째
20	이십【二十】	스물	제이십【第二十】	스무째	스무번째
30	삼십【三十】	서른	제삼십【第三十】	서른째	서른번째

2. 1. 基数詞

基数詞は事物の個数を表す数詞であるが、漢数詞の場合には基数詞が序数詞的に用いられる場合も多い。例えば、‘삼일’(三日)は‘삼일 동안’(三日間)では日数を表すけれども、暦の日付を表す場合には序数詞的に機能している。また、‘오 층’(5階)、『팔호차’(8号車)、『십 번’(10番)などでも漢数詞が序数詞的に用いられている。一方、固有数詞の場合は、基数詞と序数詞の守備範囲が明確に区分されており、‘한 시’(1時)、『열살’(10歳)など時刻や年齢を表すのに基数詞が序数詞的に用いられるのは例外的である。

2. 2. 漢数詞

漢数詞は1から10までの数詞と‘백’【百】、『천’【千】、『만’【万】、『억’【億】、『조’【兆】などの位を表す数詞とを、漢語数詞の配列どおりに並べて表現される。その際注意すべきことは次の通りである。

(1) 「六」「十」「八」の綴り方

「六」の綴りは‘육’が基本であるが、‘유, 륵, 뉴’と綴られる場合がある。

① 暦の月を表す場合には‘유’と綴る。

유월【六月】，유월도【六月桃】〔旧暦の六月に熟する桃〕

② 他の数詞と並列的に並べられる場合には、語頭以外の位置に限って‘륙’と綴る。

- ・並列式概数表現：오륙년【五六年】，오륙일【五六日】
- ・九九算：이륙십이【二六十二】，사륙이십사【四六二十四】
- ・電話番号など数字の棒読み：육삼오륙 일륙륙칠 (6356-1667)
- ・重大事件の日付の棒読み：오일륙【五一六】〔1961年の政変〕，십이륙【十二六】〔1979年の朴正熙大統領暗殺事件〕
- ・「六」の訓音：여섯 륵 (6の「六」)
- ・その他：사륙판【四六版】〔紙のサイズ〕，삼륙판【三六版】〔紙のサイズ〕，사륙제【四六制】〔地主と小作の分配比率〕，사륙변려문【四六駢儷文】〔漢文〕

の文体の一つ], 오륙도【五六島】〔釜山沖の島の名〕

③ 오뉴월【五六月】〔旧暦の五月、六月を指し暑い季節という意味〕に限って ‘뉴’ と綴る。

오뉴월 감기는 개도 아니 않는다 (五六月の風邪は犬も引かない; 夏に風邪を引いた人をからかう言葉)

오뉴월 덥친갑다 (五六月の炎天のようだ; 夏の暑さが厳しいときにいう言葉)

「十」の綴りは ‘십’ が基本であるが、例外的に ‘시’ と綴られる場合がある。

① 暦の月を表す場合

시월【十月】, 시월유신【十月維新】〔1972年10月の憲法改正〕

② 仏教用語

시방【十方】〔四方・四隅・上下の総称〕, 시방정토【十方淨土】〔十方に存在する淨土〕, 시왕【十王】〔冥土にいるという十人の判官〕, 시왕굿【十王-】〔死人の極楽往生を祈願するクツ〕

③ その他

시오리【十五里】〔십오리とも言う〕, 시왕봉【十王峰】〔金剛山の峰の一つ〕

「八」は、釈迦の生誕日である旧暦四月八日を表す ‘초파일’ に限って、パッチムの ‘ㅁ’ を落として ‘파’ と綴られる。

(2) 「一」の省略

「十」「百」「千」「万」の数を表すときその前に「一」を置かないのが普通である。日本語では 10,000 を「一万」と表記するが、韓国語では ‘만’ とだけ表記する。

만년【万年】(一万年), 만오천원【万五千-】〔15,000ウォン〕

ただし、強調や明確化のために、‘일십, 일백, 일천, 일만’ のように表記することもある。

일천구백사십오년에 일어난 사건 (1945年に起きた事件)

경영자금 1십7억2천여만 원 (経営資金 17億2千余万円)

세입 결산액 1백3억1천1백7십4만6천1백1십7원 (歳入決算額

百三億千百七十四万六千百十七ウォン)

(3) 「0」の表し方

「0」を表す漢数詞は ‘영’ 【零】である。

이대 영 (2対0), 일빼기 일은 영 (1-1=0), 영 점 이영구 (0.209),

대전발 영시 오십 분 (大田發零時 50 分)

しかし、電話番号など数字を棒読みする場合には ‘공’ が用いられる。小数点以下の数を読む場合にも使われる。

공일공 육삼오공 일공사이 (010-6350-1042), 공공칠 (007), 공구시 (09 時),

공오년 공삼월호 (05 年 03 月号), 이공공오 (2005), 영 점 이공구 (0.209)

この ‘공’ は、‘공밥’ (ただ飯) 、 ‘공술’ (ただ酒) 、 ‘공으로’ (ただで、無料で) 、 ‘공짜로’ (無料で) 、 ‘공일날’ (休日) 、 ‘반공일’ (半日休みの日) などの「何もないこと」を表す ‘공’ 【空】に由来すると考えられる。あるいは、日本語で「0」を「マル」と言うことがあるように、「ボール、まり」の意味の ‘공’ に由来するのかもしれない。‘공공기지’ (○○基地) や ‘공표치다’ (丸印を付ける) の ‘공’ はこのような比喩によるものである。

俗語的な表現では ‘빵’ が「0」の意味で使われることがある。「パン」の形状からの類推かもしれない。

빵점 (零点), 이대빵 (2対0)

英語に由来する ‘제로’ は、数詞としては使われない。次のように「皆無」の意味の名詞として用いられるだけである。

그 사람은 성격도 교양도 제로다 .(彼は性格も教養もゼロだ)

(4) 大きな数詞

日常的に接する数字は「億」(10⁸)、あるいはせいぜい「兆」(10¹²) までであるが、漢数詞には「兆」以上の単位も用意されている。

경【京】 10 ¹⁶	해【垓】 10 ²⁰	자【秭】 10 ²⁴	양【穰】 10 ²⁸
구【溝】 10 ³²	간【澗】 10 ³⁶	정【正】 10 ⁴⁰	재【載】 10 ⁴⁴
극【極】 10 ⁴⁸	항하사【恒河沙】 10 ⁵⁶	아승기【阿僧祇】 10 ⁶⁴	
나유타【那由他】 10 ⁷²	불가사의【不可思議】 10 ⁸⁰		

무량대수【無量大数】=무량수【無量数】 10^{88}

「万」から「極」までは万倍ごとの繰上げであり、「恒河沙」以上は億倍ごとの繰上げとなっているが、より古い数え方として「極」までも億倍ごとに繰上げる数え方もある。いずれにせよ、このような大きな数はおそらく仏教世界の時空間の広大無辺さを表すために作られた表現であり、古代世界において数詞として機能していたとは思われない。実際、これらの多くは数が極めて多いことを表す名詞として用いられる。数学的規定は後世のものであると思われる。

2. 2. 1 漢数詞の用法

漢数詞の用法は、数詞が単独で用いられる独立用法と、後に助数詞を伴う連体用法に分けられる。

(1) 独立用法

物を数え上げたり点呼を取ったりするときや計算などで漢数詞が単独に用いられる。

일, 이, 삼, 사, 오, 육. 여섯 개 남았어요. (一、二、三、四、五、六。6個余っています)

칠 더하기 팔은 십오 ($7+8=15$)

이십사 곱하기 구는 이백십육 ($24 \times 9 = 216$)

오십이 나누기 십일은 사 나머지 팔 ($52 \div 11 = 4\text{余}8$)

(2) 連体用法

漢数詞と共に用いられる助数詞はすべて漢語起源のものであり、次のようなものがある。

① 時間単位

년【年】: 이천팔 년 (2008 年), 삼십 년 동안 (30 年の間)

월【月】: 오 월 (5 月), 십이 월 (12 月)

일【日】: 이십일 일 (21 日), 칠 일 전 (7 日前)

분【分】: 삼십 분 (30 分), 오 분간 (5 分間)

초【秒】: 구 초 칠오 (9 秒 75), 오십 초 동안 (50 秒の間)

주(일)【週(日)】(週(間)): 이 주일 (2 週間), 삼 주 후에 (3 週後に)

세기【世紀】: 이십일 세기 (21 世紀), 기원전 오 세기 (紀元前 5 世紀)

개월【箇月】: 일 개월 (1 ヶ月), 육 개월 (6 ヶ月)

② 度量衡・貨幣単位

미터 (メートル) : 삼 미터 (3m), 백 미터 (100m)
센티 (センチ) : 팔 센티 (8cm), 백칠십오 센티 (175cm)
밀리 (ミリ) : 삼 밀리 (3mm), 이백오십오 밀리 (255mm)
킬로 (キロ) : 오십오 킬로 (55 키로), 사십이 점 일구오 킬로 (42.195 키로)
그램 (グラム) : 오 그램 (5g), 이백 그램 (200g)
리터 (リットル) : 일 리터 (1리터), 백 리터 (100 리터)
마일 (マイル) : 일 마일 (1마일), 십 마일 (10 마일)
리 【里】 [日本の「里」の十分の一] : 십 리 (10 리), 오십 리 (50 리)
원 (ウォン) : 팔백오십 원 (850 원), 만 오천 원 (15,000 원)
엔 【円】 : 십엔짜리 (十円玉)
달러 / 불 (ドル) : 십 달러 / 불 (10ドル), 백만 달러 / 불 (百万ドル)

伝統的な単位の場合には後述のように固有数詞によって数えられる。「ドル」を‘불’と読むのは「ドル」を表す記号‘\$’が漢字の「弗(불)」に似ていることに由来する。

③ その他

학년 【学年】 : 일 학년 (1年生), 초등학교 육 학년 (小学校6年生)
년생 【年生】 (～年生れ) : 이천 년생 (2000 年生まれ), 사십팔 년생 (48 年生まれ)
교시 【校時】 : 이 교시 (2時限目), 삼 교시 (3時限目)
호 【号】 : 십오 호 홈런 (15 号ホームラン)
호실 【号室】 : 팔 호실 (8号室), 삼백육 호실 (306 号室)
호차 【号車】 : 일 호차 (1号車), 십육 호차 (16 号車)
번 【番】 [順番] : 일 번 (1番), 사 번 타자 (4番打者)
층 【層】 : 이 층 (2階), 오층 석탑 【五層石塔】 (五重の石塔)
세 【歳】 : 오십오 세 (55 歳)

2. 3. 固有数詞

十位の数字にも特別の形があることが固有数詞の特徴である。

열 (10)	스물 (20)	서른 (30)	마흔 (40)	쉰 (50)
예순 (60)	일흔 (70)	여든 (80)	아흔 (90)	

(1) 大きな数詞

現代韓国語では、固有数字は下2桁までしかなく、3桁以上には漢数詞を用いる。

삼만 육천팔백 십 일곱 표 (36,857 票)

しかし、かつては ‘온’ (百)、‘즈음’ (千)、‘골’ (万)、‘잘’ (億)、‘올’ (兆) のような単位があったとされる。‘온’ は ‘온갖’ (あらゆる) 、‘골’ は ‘골백번 말해도 안 듣는다’ (何百回と言っても聞かない) のような表現に痕跡をとどめている。

2. 3. 1 固有数詞の用法

固有数詞の用法は、数詞が単独で用いられる独立用法と、後に助数詞を伴う連体用法に分けられる。

(1) 独立用法

次のような場合に固有数詞が単独で用いられる。

① 数え上げ

하나, 둘, 세, 넷, 다섯. 다섯 개 있어요. (ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ、いっつ。5個あります。)

② 前後関係から省略された助数詞がわかる場合

나이가 여덟이에요. (年が8つです)

아들 하나 딸 셋입니다. (息子一人、娘三人です)

커피 하나 주세요. (コーヒーひとつください)

하나 밖에 없는 동생 (1人しかいない弟)

③ ‘-이서’ (…人で) の前で

친구랑 둘이서 할 거예요. (友達と二人でやります)

다섯이서 먹었다. (5人で食べた)

ただし、「1人で」は ‘혼자서’ という。

④ その他慣用的な表現で

그 일에 대해서는 하나도 몰라요. (そのことについては何も知りません)

하나만은 정이 없다. (一つだけでは情がない)

둘로 나누자. (二つに分けよう)

(2) 連体用法

固有数詞が連体的に用いられるとき、‘하나, 둘, 셋, 넷, 스물’の5つの数字は最後の1音を落として‘한, 두, 세, 네, 스무’となる。

한 학생이 결석했다. (一人の学生が欠席した)

두 나라 사이에 전쟁이 일어났다. (兩國の間に戦争が起こった)

방법은 세 가지 있다. (方法は3通りある)

네 종류의 약품이 포함된다. (4種類の薬品が含まれる)

올해 스무 살이다. (今年二十歳だ)

1) 特殊な形の連体形

古風な表現として固有数詞の‘셋 / 세, 넷 / 네, 다섯, 여섯’にはそれぞれ‘석 / 서, 녁 / 너, 닷, 엇’という形がある。使い分けについては混乱があるが、正書法に標準語として規定されているのは次の通りである。

석, 녁 [ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅅの前で] :

석냥 (3 兩), 석달 (3 ヶ月), 석섬 (3 石), 석장 (3 枚)

낙냥 (4 兩), 낙달 (4 ヶ月), 낙섬 (4 石), 낙장 (4 枚)

서, 너 [ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅍ, ㅎの前で] :

서근 (3 斤), 서냥 (3 兩), 서되 (3 升), 서말 (3 斗), 서푼 (3 文), 서홉 (3 合)

너근 (4 斤), 너냥 (4 兩), 너되 (4 升), 너말 (4 斗), 너푼 (4 文), 너홉 (4 合)

닷, 엇 [ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅅの前で] :

닷냥 (5 兩), 닷돈 (5 匁), 닷말 (5 升), 닷섬 (5 石), 닷잔 (5 杯)

엇냥 (6 兩), 엇돈 (6 匁), 엇말 (6 升), 엇섬 (6 石), 엇잔 (6 杯)

2) 固有数詞とともに用いられる助数詞

固有数詞とともに用いられる助数詞あるいは助数詞的に用いられる名詞には韓国語本来のものと漢語起源のものがあり、主なものは次の通りである。

助数詞	数える対象	日本語
가닥	毛、ひも、糸、飴、髪の毛など糸状の物	本
갑【匣】	タバコ、マッチなど箱に入っている物	箱
개【個】	個体として捉えられる物全般	個, 本
개비	薪、マッチ、タバコ	本
걸음	歩数	歩
곡【曲】	歌	曲
군데	場所	箇所
권【巻】	本、ノート、アルバム	冊
그루	木	本, 株
그릇	器で食べる料理	碗, 杯
끼	食事の回数	食
다발	花束	束
달	月	月, ヶ月
대	注射	本
대【台】	冷蔵庫、車、電話、飛行機など機械類	台
되	穀類	升
마리	動物全般	匹, 頭, 羽
말	穀類	斗
명【名】	人間	名, 人
모	豆腐	丁
모금	水、タバコなどを一回口にする量	口, 服
방울	水滴	滴
벌	ズボン、洋服、シャツ、服など衣服	着, 本, 枚
병【瓶】	酒、ビール、薬など瓶に入っている物	瓶, 本
봉지	海苔、菓子など袋に入っている物	袋
부【部】	新聞、書類など	部
분	人間〔敬語〕	人様, 方
사람	人間	人
살	年齢	歳
송이	ブドウ、花など小さな部分がまとまりをなしている物	房, 輪
시【時】	時刻、時間	時(間)
알	木の実、丸薬など粒状の物	粒
입	料理、飲料	口
자【字】	文字	字, 文字
자루(本)	鉛筆、蠟燭、銃、刀、櫛など手に持って使う長い道具	本, 丁, 振り
잔【盞】	茶、酒など杯、コップなどで飲む物	杯
장【張】	紙、ガラス、紙幣、写真、絵、葉書などうすっぱらい物	枚
주【株】	株式	株
줄기	茎、枝、河川、山脈、煙、光など筋状の物	本, 筋
작	穀類	俵
차례【次例】	回数	回, 度
채	家屋、布団	棟, 軒, 組

助数詞	数える対象	日本語
척【隻】	舟、船	艘, 隻
칸	部屋	部屋, 間
컬레	靴、靴下、手袋など揃いの衣類	足,揃,組
통	スイカ、カボチャ	個, 玉
통【通】	手紙、書類	通
통화【通話】	通話量	通話
편【篇】	映画、詩	篇
坪【坪】	土地、部屋、田畑	坪
포기	白菜、草	株, 個
해	年	年

(3) 数量化名詞句の取る構文

数量化された名詞句は次のような構文を取る。

- (1) a. 학생 세 명이 와요. (学生3名が来ます)
b. 학생이 세 명 와요. (学生が3名来ます)
c. 세 명의 학생이 와요. (3名の学生が来ます)
d. 학생이 세 명이 와요.
- (2) a. 사과 다섯 개를 샀다. (リンゴ5個を買った)
b. 사과를 다섯 개 샀다. (リンゴを5個買った)
c. 다섯 개의 사과를 샀다. (5個のリンゴを買った)
d. 사과를 다섯 개를 샀다.

通常は a か b の構文が用いられる。c は文語的で日常の会話では用いられない。名詞と数量表現の両方に助詞を付ける d のタイプの構文は、日本語には相当するものがないが韓国語としては自然な表現である。

2. 4. 漢数詞と固有数詞の使い分け

‘한 번’ (一回) と ‘일번’ (一番) に代表されるように、同じ助数詞に対して固有数詞と漢数詞の両方が用いられる場合、前者は基数詞表現であるのに対して後者は序数詞的表現になる。

- 권【巻】: 일권 (第一巻) ~ 한 권 (一冊)
동【棟】: 일동 (一棟) ~ 한 동 (一棟 (ひとむね))
부【部】: 일부 (一部) ~ 한 부 (1部)

층【層】: 일층(一階) ~ 한층더(さらに一層)
단계【段階】: 일단계(第一段階) ~ 한 단계(1段階)
학년【学年】: 일학년(一年生) ~ 한 학년(1学年)
사단【師団】: 일사단(第一師団) ~ 한 사단(一個師団)

次の序数詞は、普通、漢数詞とともに用いられるが、数が小さい場合には固有数詞も使われる。

주일【週日】: 일 주일(一週間) = 한 주일
학급【學級】: 일 학급(一學級) = 한 학급
개시【個市】: 일 개시(一つの市) = 한 개시
개군【個郡】: 일 개군(一つの郡) = 한 개군
개면【個面】: 일 개면(一つの面) = 한 개면
개동【個洞】: 일 개동(一つの洞) = 한 개동

‘한 학급’は‘일 학급’よりもむしろ自然である。

逆に、数値が大きい場合に、本来固有数詞と結び付く助数詞が漢数詞とともに用いられる場合がある。ただし、どの程度の数からそれが許容されるかについては、助数詞ごとの差もあり個人差もある。

권【卷】: 한 권(1冊), 이십육 권(26冊)
시간【時間】: 세 시간(3時間), 삼십오 시간(35時間)
장【張】: 열 장(10枚), 이십 장(20枚)
명【名】: 다섯 명(5人), 십오 명(15人)
배【倍】: 두 배(2倍), 삼십오 배(35倍)
坪【坪】: 다섯 평(5坪), 오십 평(50坪)

このように固有数詞か漢数詞かで揺れがある助数詞(的名詞)はいずれも漢語起源のものであり、‘군데, 끼, 달, 되, 말, 모금, 송이, 알, 짹, 사람, 입, 채, 찹, 칸, 해’のように固有語起源のものは常に固有数詞と結びつく。

年齢を表すには「固有数詞+‘살’」と「漢数詞+‘세’」の2種類の表現があり、前者は話し言葉、後者は書き言葉で用いられるとされるが、数が大きい場合には話し言葉でも後者がよく用いられる。

時間単位のうち‘시’【時】は例外的に固有数詞と結び付くが、軍隊や公共交通関係で

は正確を期するために漢数詞と結合こともある。

固有数詞と漢数詞のせめぎ合いはかなり複雑で一般的規則では処理できない場合が多い。いくつか例を指摘すると、「三叉路」「十字路、交差点」はそれぞれ ‘세거리 / 삼거리’ と ‘네거리 / 사거리’ のように固有数詞、漢数詞の両方が可能であるが、「五叉路」以上になると ‘오거리, 육거리’ のように漢数詞だけが用いられる。

「兄弟」は二人のときは ‘두형제’ としと言わないが、三人以上は ‘세형제 / 삼형제, 네형제 / 사형제’ のように固有数詞、漢数詞のどちらも用いられ、5人以上になると ‘오형제, 육형제’ のように漢数詞だけになる。一方、「姉妹」の方は、四人までは ‘두자매, 세자매, 네자매,’ のように固有語しか用いられないが、「五人姉妹」は固有数詞、漢数詞の両方が可能である(다섯자매 / 오자매)。

2. 5. 概数表現

おおよその数を表すには、連続する2つの数詞を並列する方法と、連体詞、副詞、接尾辞、依存名詞などを用いる方法とがある。

(1) 並列表現

漢数詞、固有数詞のいずれにも並列による概数表現が可能である。

漢数詞：

일이 년 (一、二年) 이삼 분 (二、三分), 삼사 인분 (三、四人分),
사오 주 (四、五週), 오륙 리 (五、六里), 이삼십 년 (二、三十年),
삼사백 명 (三、四百人), 칠팔만 엔 (七、八万円), 구시 월 (九、十月),
구십 주 (九、十週)

固有数詞：

한두 명 (一、二名), 두세 사람 (二、三人), 서너 / 세네 잔 (三、四杯),
대여섯 달 (五、六ヵ月), 대엿새 (五、六日), 예닐곱 병 (六、七瓶),
예니레 (六、七日), 일고여덟 살 (七、八歳), 여덟아홉 / 열아홉 시간 (八、九時間)

連続する2つの数詞を並べるのが原則であるが例外的に3個の数字を並べた ‘두서너 개’ (二、三個ぐらい) がある。固有名詞に独立的に用いられる並列型概数表現もあるが、その場合最初の数詞は連体形が用いられる。

하나둘 / 한둘 (一、二), 둘셋 / 두셋 (二、三), 셋넷 / 세넷 (三、四),

넷다섯 / 네다섯 / 너더댓 / 너덧 / 너댓 / 네댓 (四、五),

固有数詞には並列型ではない次のような概数表現もある。

두어 명 (二人ぐらい), 다섯 장 (5枚ぐらい), 열댓 명 (15人ぐらい)

(2) 概数を表す要素

およその数量を表すのに用いられる要素は様々なものがある。

① 連体詞

한 : 한 삼십만 원 (約 30 万ウォン)

약 : 약 두 시간 (約 2 時間)

근【近】: 근 한 시간 (ほぼ 1 時間)

② 副詞

대략【大略】: 대략 30,000 명의 관중 (およそ 30,000 名の観衆)

대체로【大体-】: 대체로 3,000,000 달러의 매상 (大体 3,000,000 ドルの売上げ)

대충 : 택시로 대충 40 분의 거리 (タクシーでおよそ 40 分の距離)

③ (依存) 名詞

정도【程度】: 삼 주일 정도 (三週間程度)

가량【仮量】: 일주일 가량 (一週間ぐらい)

남짓 : 한 달 남짓 (ひと月余り), 일년 남짓 사이에 (1年余りの間に); 십 킬로미터

남짓이 (10 キロメートル余り), 천 명 남짓한 학생 (1,000 名余りの学生)

전후【前後】: 사십 세 전후의 부인 (40 歳前後の婦人)

안팎 : 서른 안팎의 총각 (30 内外の独身男性), 1,000 원 안팎 (1,000 ウォンばかり)

내외【内外】: 10,000 원 내외 (10,000 ウォン内外), 백 명 내외 (100 名内外)

④ 接尾辞

쯤 : 한 시간쯤 (1 時間ほど)

여【余】: 오백여 명 (500 余名)

2. 6. 日付の表し方

日付を表すには次の6通りの方法がある。

漢字語A：漢数詞＋일【日】

漢字語B：漢数詞＋일＋날（日）

固有語A：固有語日数詞

固有語B：固有語日数詞＋날

固有語C：초（初）＋固有語日数詞

固有語D：초＋固有語日数詞＋날

	漢字語A	漢字語B	固有語A	固有語B	固有語C	固有語D
1 日	일일	일일날	하루	하룻날	초하루	초하룻날
2 日	이일	이일날	이틀	이튿날	초이틀	초이튿날
3 日	삼일	삼일날	사흘	사흘날	초사흘	초사흘날
4 日	사일	사일날	나흘	나흘날	초나흘	초나흘날
5 日	오일	오일날	닷새	닷새날	초닷새	초닷새날
6 日	육일	육일날	엿새	엿새날	초엿새	초엿새날
7 日	칠일	칠일날	이레	이렛날	초이레	초이렛날
8 日	팔일	팔일날	여드레	여드렛날	초여드레	초여드렛날
9 日	구일	구일날	아흐레	아흐렛날	초아흐레	초아흐렛날
10 日	십일	십일날	열흘	열흘날	초열흘	초열흘날
11 日	십일일	십일일날	열하루	열하룻날	—	—
12 日	십이일	십이일날	열이틀	열이튿날	—	—
19 日	십구일	십구일날	열아흐레	열아흐렛날	—	—
20 日	이십일	이십일날	—	스무날	—	—
21 日	이십일일	이십일일날	스무하루	스무하룻날	—	—
22 日	이십이일	이십이일날	스무이틀	스무이튿날	—	—
29 日	이십구일	이십구일날	스무아흐레	스무아흐렛날	—	—
30 日	삼십일	삼십일날	—	서른날	—	—

このうち、漢字語Aと固有語Aは日付にも日数にも使えるが他は日付にしか使えない。

漢字語Aは日付表現としても日数表現としても最も基本的である。

漢字語Bは口語的な表現である。接尾辞の‘날’は‘월요일날（月曜日）, 화요일날（火曜日）’のように曜日表現にも付く。「暦月名」に‘달’（月）を付けた‘일 월달（一月）, 이 월달（二月）’のような表現と同じ構造である。これらの表現は副詞的にも用いられる。

십 일날（예）오세요.（10 日に来てください）

이 월달（예）이사가요.（2 月に引っ越します）

固有語Aは日付にも日数にも使えるが、日数表現として用いられることが多い。日付表現としては固有語B、C、Dの方が一般的である。やや古風な表現であり、最近では‘하루, 이

들, 사흘, 나흘, 열흘' 以外はあまり用いられない。固有語Aには「20 日」と「30 日」が欠けている。

固有語Bは固有語日数詞(固有語A)に‘날’を付けたものであるが、このとき‘이틀, 사흘, 나흘’は終声が‘ㄷ’に変わる。‘이틀날, 사흘날, 나흘날’もよく見かけるが、これは正書法規定により誤用とされている。固有語Bは日付を表すほか、特定の日から数えて「～日目」の意味でも使われる。

固有語C、Dの接頭辞‘초’は‘초순’(初旬)の意味であるので、この種の表現は「10 日」までしかない。

以上の他に、特殊な日付表現として次のようなものがある。

보름(날)(旧暦の 15 日)	대보름(날)(旧暦の正月 15 日)
그믐(날)(晦日)	섣달 그믐(날)(大晦日)
첫이레(誕生後 7 日目)	두이레(誕生後 14 日目)
세이레(誕生後 21 日目)	사십구(일)/칠칠일(死後 49 日目)

3. 序数詞

漢数詞の序数詞は基数詞に接頭辞‘제’【第】を付けることで作られる。原則として連体的に用いられる。

제일회【第一回】, 제이차【第二次】, 제삼기【第三期】, 제사장【第四章】,
제오위【第五位】, 제육감【第六感】, 제칠호【第七号】, 제팔탄【第八弾】

独立用法としては次のような表現がある。

- (a) 제일로(第一に), 제이로(第二に), 제삼으로(第三に)
- (b) 제이의 고향(第二の故郷), 제삼의 조건(第三の条件)

(b) のような表現は構造的には独立用法であるが、連体助詞‘의’を伴って全体として連体的な構造になっている。

‘제일’には次のような独立用法がある。

제일 친했던 친구(一番親しかった友達)
역시 건강이 제일이다.(やはり健康が一番だ)

固有数詞の序数詞には、本稿の冒頭に示したように

A形式：「基数詞基本形＋接尾辞‘째’」(둘째, 셋째, 넷째)

B形式：「基数詞連体形＋助数詞‘번’＋‘째’」(두번째, 세번째, 네번째)

の2つの形がある。「一番目」には‘하나/한’ではなく‘첫’を用いて‘첫째, 첫번째’となり、B形式の「20番目」は連体形を用いて‘스무째’となる。

A形式よりB形式の方が口語的であるということを除いて両形式の間に用法上の大きな違いはないと考えてよい。どちらにも独立用法と連体用法がある。

B形式の‘번’の位置に他の助数詞が来ることもある。

두 그릇째(2杯目), 세 사람째(3人目), 네 개째(4個目)

4. 数詞に関するその他の事項

(1) 電話番号の読み方

数字を棒読みし、局番の後に助詞の‘의’(の)を入れるのが最も一般的な読み方である。局番を普通の漢数字読みにして‘국’【局】を付けることもある。ゼロは‘공’と読むのが普通であるが‘영’【零】と読むこともある。聞き違いを避けるために「1」を固有数詞‘하나’で読むことも多い。

502-6982 오공이(의) 육구팔이

789-4989 칠백팔십구국(의) 사구팔구

090-4152-1556 공구공 사일오이 일오오륙

03-1672-3093 영삼 일륙칠이 삼영구삼

371-2611 삼칠하나(의) 이륙하나하나

(2) 記号(～)の読み方

期間や数量的範囲を表すのに「～」を用いることがある。その読み方は次の通りである。

- ① 助数詞付きの表現を「～」で結ぶ場合には‘부터’と読むのが普通であり、‘에서’も可能である。

1995 년～2005 년(천구백구십오 년부터 / 에서 이천오 년)(1995 年～2005 年)

50 장～100 장(오십 장부터 / 에서 백 장)(50 枚～100 枚)

4 명 ~ 10 명 (네 명부터 / 에서 열 명) (4名 ~ 10名)

数量的範囲を表す場合に限って ‘ 내지 ’ 【乃至】と読まれることがあるが、文語的であり硬い表現である。

- ② 数字を結ぶ場合には、‘ 에서 ’ と読むのが標準であり、‘ 부터 ’ は可能であるがややぎこちない。

7 ~ 10 월 (칠에서 시 월) (7 ~ 10 月)

- ③ 連続した数字を結ぶ場合は、並列的概数表現の表記法の一つとみなされ「～」は読まない。

3 ~ 4년 (삼사 년) (3 ~ 4年)

14 ~ 15 세기 (십사오 세기) (14 ~ 15 世紀)

200 ~ 300 장 (이삼백 장) (200 ~ 300 枚)

4 ~ 5명 (네다섯 명) (4 ~ 5名)

(3) 日付数字で表現される歴史的事件

歴史的な事件を指すのにそれが起こった日付を棒読みにして示すことがある。

이팔 독립 선언 【二八独立宣言】 1919 年 2 月 8 日、東京で韓国人留学生らが韓国独立宣言書と決意文を発表したこと。

삼일 운동 【三一運動】 1919 年 3 月 1 日に始まった民族独立運動。その記念日を ‘ 삼일절 ’ 【三一節】と言う。

육십 만세 운동 【六十万歳運動】 [1926 年 6 月 10 日、純宗の国葬の日に起きた抗日運動。

제주도 사삼 사건 【濟州島四三事件】 1948 年 4 月 3 日に濟州島で起きた暴動。

팔일오 (광복) 【八一五 (光復)】 1945 年 8 月 15 日、韓国が日本の統治から解放されたことを言い、その記念日は国慶日で ‘ 팔일오 광복절 ’ 【八一五光復節】と言う。

육이오 (전쟁) 【六二五 (戦争)】 1950 年 6 月 25 日に勃発した内戦。 ‘ 한국 동란 ’ 【韓國動乱】とも言う。

사일구 혁명 【四一九革命】 1960 年 4 月 19 日に起った学生・市民による民衆革命。 ‘ 四一九義挙 ’ とも言う。

오일륙 군사 정변【五一六軍事政變】1961年5月16日、朴正熙の主導により引き起こされた政変。‘오일륙 혁명’【五一六革命】とも言う。

칠사 남북 공동 성명【七四南北共同声明】1972年7月4日、韓国政府と北朝鮮政府がソウルと平壤で同時に発表した民族団結の統一原則。

십이륙 사태【十二六事態】1979年10月26日、朴正熙大統領が側近に殺害された事件。

오일팔 민주화 운동【五一八民主化運動】1980年5月18日、全羅南道の光州で起きた民主化運動。‘광주 민주화운동’【光州民主化運動】とも言う。

육이구 민주화 선언【六二九民主化宣言】1987年6月29日、国民の民主化要求に応じて盧大愚大統領が民主化すること約した宣言。

육일오 남북 공동 선언【六一五南北共同宣言】2000年6月15日、七四南北共同宣言の趣旨を継いで南北離散家族の問題、緊張緩和、和解、協力を約束した宣言。

参考にした図書

油谷幸利ほか編『朝鮮語辞典』小学館，1993年

国立国語研究院編『標準国語大辞典』斗山東亜，2003年

教育人的資源部編『国史』2002年

미승우『新正書法と校訂の実際』語文閣，2002年

서정수『国語文法』漢陽大学校出版院，1996年